年　号	出　来　事
明治４５ （１９１２）	2.－ 追浜トンネル（浦郷町３丁目・浦郷町５丁目間）が竣工する。当初は「鉈切トンネル」と称したが、昭和８年に改修された際、追浜トンネルと改称される。(『横貿』) 3. 7 飛行場用地拡張のため、海軍は夏島地先公有水面７９，２４４坪の埋立申請を県知事あて行う。以来この地先の入り江は、２０数回にわたり埋立が行われる。(『横貿』) 3.－ 浦郷村鉈切、久良岐郡野島村、六浦荘の漁民、海軍築港部による浦郷村深浦と鉈切間の築港と、深浦前面烏帽子岩および夏島間の海面１万坪の埋立は、漁船が航路を失うため沿岸に一道の航通路を残すよう海軍省に陳情することを協議する。(『市史８０』別) 6. 8 尋常浦郷小学校、字清水２３２０番地（現在地）に校舎新築、開校式を挙げる。校舎１６３坪、運動場１，３７７坪、建築費５，４９０円。この日を創立記念日とする。(『浦小沿革』) 6.26 海軍航空術研究委員会が設立され、事務所を田浦水雷団に置かれる。(『航空史』
大正元 （１９１２）	8.22 浦郷村で野犬により８人が咬傷を負う。(『横貿』) 9.30 追浜での航空術研究のための格納庫及び事務所が竣工する。「木造堀建荒木造」の平家建で、建坪２４５坪、工費7,130円であった。(『海軍営繕研』) 10. 9 米国製複式水上飛行機２機、追浜の水上飛行機航空術研究所に到着する。(『横貿』) 10.20 尋常浦郷小学校付属実業補習学校、子守の女子なども通学できるよう夜間授業の特殊部を設置する。(『市教育史』) 10.21 海軍航空術研究委員会は追浜に南北６００メートル、東西２００メートルの地積を整理して機体格納庫１棟、海岸に滑走台を造る。追浜飛行場の誕生である。(『航空史』) 10.－ 尋常浦郷小学校付設の実業補習学校を再開する。(『浦小沿革』) 11. 2 追浜飛行揚で河野三吉大尉ら、新着のカーチス式水上機で初めて試乗飛揚に成功する。日本海軍初の飛行であった。(『航空史』) 11. 5 金子養三大尉操縦のファルマン式水上機の飛行に成功する。(『航空史』) 11. 8 横須賀市及び三浦郡内にコレラ発生のため、市内の魚問屋や魚商らに鮮魚販売禁止通告（『横貿』)

年　号	出　来　事
	11.12 金子・河野両大尉、横浜沖にて挙行の観艦式に参加、天覧飛行に成功する。(『航空史』) 12.17 金子大尉、ファルマン機で東京湾横断に成功する。(『横貿』) この年、水産講習所（東京水産大学）が夏島の養蠣場でフランス式稚貝付着器を設置し、養殖法の改良試験に着手。(『牡蠣礼讃』)
大正２ （１９１３）	1．4 鉈切青年同志会の第１回総会を正禅寺で開催、講話や教育的娯楽などを実施、数百名が参加する。(『横貿』) 1．－ 榎戸・日の出常設館が開館する。建坪３６坪、定員３８０名、経営は日向・石戸伝吉。(『田浦町誌』) 2.18 浦郷村研究会､尋常浦郷小学校で青年修養講演会を開催する。(『横貿』) 4．－ 海軍航空術研究委員会の事務所を、田浦水雷団から追浜に移す。(『横貿』) 8.17 浦郷村本浦青年団､尋常浦郷小学校で発会式を挙行する。(『横貿』) 10.20 西南役兵士の墓碑を追浜海岸の黒崎より、現在地に改葬される。(『横貿』) この年、①本浦地区に初めて電気がつく。②浦郷（本浦･鉈切･深浦･榎戸･日向）の戸数１，１４２となる。③宮城新昌（沖縄出身）が米国から帰国。その後、鉈切に牡蠣養殖のローヤル商会（浦郷 2873）を設立し、牡蠣養殖を開始する。(『牡蠣礼讃』) ④浦郷小学校の在籍児童数５７４名という。(『浦小沿革』)
大正３ （１９１４）	1．7 追浜飛行場で新購入のドゥペルデュッサン式飛行機の初飛行に成功する。(『横貿』) 3．3 追浜海軍飛行場でドゥペルデュッサン式飛行機が墜落。井上・庄司両大尉が重傷。(『航空史』) 4．1「町村制」の規程により区を置き、各区に区長及び区長代理者を置いて､町一般行政の補助及びその区の重要事務を執行させる(本浦･鉈切・深浦・榎戸・日向各区)。(『田浦町誌』) 6．1 浦郷村、町制を施行。田浦町と改称し、役場を船越に置く。初代町長に金谷運吉が就任。(『県公報』『田浦町誌』) 8.13 暴風雨で汽船流出沈没や崖崩れが相次ぐ。(『横貿』) 8.23 海軍航空隊、青島攻囲戦に参加する。(『航空史』) 10．－ 相海鉄道工事期限延長願却下される。(『新市史』資近現Ⅱ)

年　号	出　来　事
	12.20 追浜飛行場の設備が整い、飛行機１１機となる。(『航空史』)
	この年、①御大典（大正天皇即位）記念に町から各社寺に銀杏を２本植樹する。②この頃、水産講習所とローヤル商会が共同して試験養殖を行い、海軍用地である夏島周辺浅瀬など８０町歩（？）を設定している。(『牡蠣礼讃』)
大正４ （１９１５）	3. 6 追浜にて練習飛行のファルマン機墜落、安達・武部両大尉および柳瀬三等兵曹の３名が殉職。海軍航空最初の犠牲者であった。(『航空史』)
	4.13 小説家有島武郎、飛行機見学のため追浜を訪れる。(『有島武郎全集』書簡編)
	4. － 浦郷尋常小学校の実業補習学校を休止する。『浦小沿革』)
	7.15「榎戸青年会の現況」、会員数５７名、殆ど海軍職工で、海軍工廠造兵部に勤務する。(『横貿』)
	7.26 追浜飛行場で第１回夜間飛行に成功する。(『横貿』)
	9.17 夏島砲台、笹山砲台ともに防禦営造物より除籍され、海軍省に移管される。(『新市史』別軍)
	9. － 追浜地先埋立地の一部を田浦町に編入（以後昭和５年２月まで５回にわたり、計４９万平方㍍＝ 14 万９千坪を編入)。
	11. － 日向に「梅田隧道之碑」が建立される。発起人田川平三郎他、撰文田辺新之助（漢学者・逗子開成中学校長)。(碑文銘)
大正５ （１９１６）	1.24 浦郷の座間與吉と田中勝太両名申請の同町地先公有水面約１，４８２坪の埋立が許可される。
	3.20 東京の海事博覧会開会式訪問の阿部中尉・頓宮機関大尉搭乗機が帰途に墜落、両将校死亡。(『横貿』)
	4. 1 海軍航空術研究委員会を廃し、横須賀海軍航空隊（鉈切・追浜）を開隊する。追浜飛行場は同隊付属となる。(『航空史』)
	4.23 梅田隧道開鑿記念碑除幕式を挙行する。(「案内状」)
	9. 1 尋常浦郷小学校、浦郷字深浦・鉈切にコレラが発生のため、同月１５日まで閉校する。(『市教育史』)
	10.17 深浦トンネル（浦郷町３丁目･追浜東町２丁目間）の開通式を行う。すでに開削工事は去る８月中旬に竣工していたが､虎列剌(コレラ)が蔓延したため、開通式は延期されていた。(『横貿』)

年　号	出　来　事
	11.20 横須賀海軍航空隊第１回飛行学生卒業飛行で東京湾を飛行する。(『横貿』)
大正６ （１９１７）	2. 1 横須賀市と田浦町の合併協議会が横須賀市役所で行われる。田浦町から町長金谷運吉、町会議員田川平三郎、田中勝太など７名が参加する。(『横須賀市史稿』) 2.19 天皇陛下､横須賀海軍航空隊に行幸し､飛行訓練等を天覧する｡(『航空史』) 5. 1 浦郷字南郷、南郷谷戸、駒寄、皆ケ作、梅田、梅田谷戸、長畠を大字船越に編入する。(『横須賀の町名』) 8.27 田浦町浦郷字追浜地先水面埋立地に追浜の字名を付す｡(『県公報』) 9.30 暴風雨と大潮が重なり、船舶の流出や家屋倒壊、軒下浸水など被害甚大。(『横貿』)
大正７ （１９１８）	2. 4 浦郷の火の見櫓建築費問題で浦郷区長が引責辞任する。(『横貿』) 4. 1 横須賀海軍航空隊（追浜）に気球隊を設置する。(『航空史』) 4. －「横廠式水上偵察機」２機、横須賀・佐世保間無着水飛行に成功する。(『横貿』) 6. 1 追浜に陸上飛行場を造成するため夏島・野島の海面（約１５万坪）の埋立工事が始められる。烏帽子島（標高 15 m、周囲約 200 m）は、この年最初に崩されて跡形も無くなった。(『市史５０』) 12.27 東鈩切・神明社、同所の稲荷社、酒ノ宮両社を合併する。(『田浦町誌』『神社明細帳（三浦郡)』) 12.30『三浦郡誌』（神奈川県三浦郡教育会編）が発刊される。「浦郷」の項に「夏島の付近に有名な牡蠣の養殖地あり」と記される。(左書奥付) この年、①鈩切にコレラが流行、死者９名という。(『浦郷村の今昔』) ②水産講習所・ローヤル商会共同の牡蠣試験養殖場であった海面が、海軍航空隊の敷地拡張のため埋立となる。代地として深浦湾口に移して試験を続行。(『牡蠣礼讃』『三浦郡誌』)
大正８ （１９１９）	1.17 横須賀海軍航空隊の桑原大尉、水上飛行機で日本初の宙返りに成功する。(『横貿』) 3.30 横須賀海軍航空隊気球隊、繋留気球の製作試験飛行に成功する。(『横貿』)

年　号	出　来　事
	4.11 国道４５号は道路法制定により、国道３１号（横浜・横須賀鎮守府間）となる。(『官報』)
	10.31 東鉈切・神明社、本殿・覆殿改築が竣工する。(『神社明細帳（三浦郡)』)
	11.26 西鉈切・稲荷社及び同所酒ノ社の２社が、東鉈切・神明社に合併処分済を届出る。(『神社明細帳（三浦郡)』追記)
	12.23 鷹取山で石材運搬中に事故があり、１人死亡する。(『横貿』)
	この年、吉倉・榎戸間渡船の田浦発着所を廃止、海軍地拡張のため。(『横経済史』)
大正９ （１９２０）	4.－ 座間愛蔵、法福寺に半鐘を寄進する。(『法福寺誌』)
	5.－ 鳥海医院、榎戸（現浦郷町１丁目５９番地）に産婦人科を主体にして開院する。(仮題『自伝青山松次』)
	6.26 横須賀海軍航空隊で初の艦船発着飛行に成功する。(『横貿』)
	7. 7 フランス・フォール航空使節団が追浜の横須賀海軍航空隊で航空教育を開始、講習は８月２日まで行われる。(『新市史』別軍)
	7.－ 飛行場造成の埋立地の一部を田浦町に編入（以後昭和１７年７月まで１８回にわたり約２０万平方㍍＝６万３千坪＝を編入）する。
	9.30 海軍航空隊の航空機３機が、第１回国勢調査の宣伝ビラを市街上空から散布する。(『横貿』)
	10. 1 第一回国勢調査が実施される。田浦町（浦郷、船越、田浦、長浦）の人口２０，１８０人。(『国勢調査』)
	10.30 尋常浦郷小学校で教育勅語御下賜３０年記念式が挙行される。(『市教育史』)
	11. 6 県の商工展覧会開会に際し、海軍航空隊（追浜）の航空機３機が、宣伝ビラを散布。(『横貿』)
	12.20 夏島の埋立工事現場で落石、土工１名が死亡する。(『横貿』)
	この年、①掛田商店が創業される（掛田仁市・鷹取町)。(『此処』) ②航空隊地埋立の一部が完成、このため養蠣場を深浦湾から再び夏島埋立地に隣接する浅瀬や水路に選定、同１２年まで継続する。(『牡蠣礼讃』)
大正１０ （１９２１）	2. 8 横須賀海軍航空隊（追浜）拡張工事（夏島埋立地）で崖崩れがあり、３人死傷する。(『横貿』)

年　号	出　来　事
	3.－ 横須賀海軍航空隊に飛行船隊を設置し、飛行船の戦術用法の本格的な研究を始める。(『航空史』) 6.18 追浜で飛行機より初めて魚雷発射に成功する。(『横貿』) 7.19 尋常浦郷小学校の敷地拡張のため浦郷字清水の畑地を買収（約1,500坪、単価２円10銭）と校舎建設費の総額三萬八千弐百三円の追加予算案を提出。(「田浦町議会記録」) この年、吉倉運輸組は吉倉運輸㈱となり、吉倉・榎戸間の海路に発動機船５隻を備えて発着する。(『市史５０』)
大正１１ （１９２２）	1.25 追浜飛行場の巨大な飛行船格納庫が大爆発し、飛行船共に一瞬にして焼失する。(『浦郷村の今昔』『横貿』) 3.16 追浜で日本人の落下傘練習に成功する。(『横貿』) 4.26 地震あり。観音埼灯台に大亀裂を生じる。震源地は浦賀水道付近という。(『県災害誌』) 6. 1 国道第３１号の改修工事を起工。船越坂を掘削して浦郷トンネルの造成に着手する。(『横貿』) 7.21 田浦町議会、浦郷字天神地先水面の２万９，８６８坪の埋立工事のため、２５万円の起債を決議する。(『新市史』資近現Ⅱ) 8.10 寺田寅彦（当時東京帝国大学航空研究所所員)、追浜に行き飛行船焼失現場を視察、当時の状況を査問する。(『寺田寅彦全集』) 11.－ 国道特２３号（国道第３１号から航空隊まで、４間半乃至５間幅）を起工着手する。「特」とは軍道のこと。(『田浦町誌』)
大正１２ （１９２３）	2.11 深浦青年団総会で民力涵養の講演会を行う。(『横貿』) 3. 4 尋常浦郷小学校保護者会が発足する。(『商工案内』11) 4. 1 尋常浦郷小学校は、田浦町浦郷尋常小学校と改称する。在籍児童数８９９人という。(『浦小沿革』) 5.10 横須賀市医師会（会長長岡幻廓）一行、家族連れで追浜飛行場を見学する。(『横須賀医師会略史』)) 7.24 浦郷字郷戸地先の公有水面埋立地６６２坪を編入する。(『田浦町議会記録』) 8.24 浦郷字矢濱地先の公有水面を埋立て、６９１坪５合３０を編入する。(『田浦町議会記録』)

年　号	出　来　事
	9. 1 関東大震災。浦郷尋常小学校の神応・清水両校舎全壊、男児２名死亡、女児１名負傷。１０月１０日まで授業休止。以後全学年２部授業を実施。(『市教育史』)　田浦町の被害は、死者１２８名、負傷者４８０余名、全壊家屋４７３戸、半壊家屋１，３７９戸、破壊家屋１，６５０戸という。田浦町浦郷の被害（町役場調）９月１２日報告。

	人　員			家　屋	
	死者	傷者	行方不明	全壊	半壊
本浦・鉈切	7	0	0	８３	４６０
深浦・榎戸・日向	5	0	0	２５	１８６

	9. 2 海軍航空隊による震災被害状況の第１次偵察撮影飛行が東京―横浜―三浦半島上空で開始された（計６回行われる)。(『市震災誌』)
	9. 6 海軍航空隊、横須賀―芝浦(鎮守府・海軍省)間の定期飛行開始(１２日まで７回飛行)。(『市震災誌』)
	9. 9 海軍航空隊、第２次偵察撮影飛行開始（～ 12 日)。(『市震災誌』)
	11.1 航空船隊を横須賀海軍航空隊から霞が浦航空隊へ移転する。(『横貿』)
	この年、①浦郷火葬場、民営（船越葬儀社大野屋）であったが大震災後町営となる。(『市史５０』) ②浦郷小学校の在籍児童数８９９名という。(『浦小沿革』) ③夏島付近の牡蠣養植は関東大震災で大被害を受け、地盤の隆起などで地蒔き式養殖法では継続できなくなる。このため海の立体利用が図られ深所の養殖技術が考案され、ローヤル商会の宮城新昌などによって画期的な垂下式養殖法が開発される。(『牡蠣礼讃』)
大正１３ （１９２４）	1.14 浦郷字郷戸地先の公有水面埋立地の２６１坪を編入する。(「田浦町議会記録」)
	4. － 田浦町各尋常小学校に児童保護者会を設置、浦郷尋常小学校の初代保護者会長に田川平三郎が就任。(『田浦町誌』)
	5. － 石渡製材所(石渡峰吉、浦郷 2485 番地)が創業する。(『横経済史』)
	6. 8 田浦町女子青年会浦郷支部が発足する。(『横貿』)
	6.21 田浦町は浦郷字細浦地先の公有水面３５６坪を埋立てる議案を提出する。(『田浦町議会議案』)

年　号	出　来　事
	7.30 榎戸・正観寺本堂を邱上の現在地へ新築・移転。完成に伴い入仏式の練行列が行われる。(『正観寺誌』)
	8.26 大暴風雨のため崩崖・浸水など被害甚大という。(『新市史』資近現Ⅱ)
	12.－ ㈱川井組（浦郷 4317、田川平三郎）が設立される。(『商工案内』11)
	この年、深浦・大国主社に海軍砲身及び砲架が奉納される。(『田浦町誌』)
大正１４ （１９２５）	1.－ 国道第 31 号の改修工事が田浦・吉倉間を除き完成。この月、特２３号国道（軍道、本浦駐在所から航空隊正門迄、幅 9㍍）も完成する。(『市史５０』)
	6.16 海軍施設に夏季中遊泳所を開設、浦郷では航空隊前に追浜遊泳所を開設する。(『新市史』資近現Ⅱ)
	9.29 ２９日～１０月１日まで集中豪雨が続き、床上浸水や全壊家屋、死者６名など被害甚大。(『横貿』)
	9.－ 鈴木木工場（鈴木金五郎、本浦 212 番地）が創業する。(『新市史』資近現Ⅲ)
	12.－ 関東興信銀行浦郷代理店が日向に開業する。(『田浦町誌』)
	この年、①浦郷トンネル（追浜町１丁目・船越町間）が竣工する。(『市史５０』) ②鉈切・ローヤル商会の宮城新昌は牡蠣養殖の新技法である垂下式養殖法をクリアすると、新しく宮城県石巻に会社を興し、牡蠣の生産を開始する。この新技法で牡蠣生産は飛躍的な増産となり、その技術は昭和前期に全国に普及した。鉈切は宮城新昌の名とともに、その技術革新の名誉ある地である。なお、ローヤル商会による鉈切の牡蠣養殖所は昭和１１年頃まで存在していたと思われる。(『田浦町誌』『郷土地理読本』『空技廠と航空隊』『牡蠣礼讃』)
大正１５ （１９２６）	2.16 浦郷・佐野平次郎、浦郷字清水２３５７番地山林３畝１０歩（内芝地１畝１８歩）を浦郷小学校敷地として寄付する。(『田浦町議会記録』)
	3.１ 大正７年以来工事を進めてきた追浜陸上飛行場が一応完成、埋立地は約１５万坪（この内約１１万坪が陸上飛行場）に及び、その費用は１３７万３，５６４円という。(『新市史』別軍)
	4.－ 日向・八王子社へ海軍砲身・砲架及び弾丸が奉納される。(『田浦町誌』)

年　号	出　来　事
	5.17 浦郷尋常小学校児童保護者会代表田川平三郎より教授用大形オルガン壱台（価格二百八拾九円）を同校に寄付する。(『田浦町議会記録』)
	7. 1 田浦町立浦郷青年訓練所を浦郷尋常小学校内に設置、生徒数１６０名という（昭和３年度の生徒数は３７名)。(『田浦町誌』)
	9.25 雷神社、県公報布告４１１号により神饌幣帛料を奉る指定神社となる。(『田浦町誌』)
	10.－ 榎戸・山中社、再建され、消防組役付山田正次郎外１５名が石灯籠一対を奉納する。(石灯籠刻銘)
	11.27「明治憲法起草遺跡記念碑」の除幕式を挙げる（横須賀海軍航空隊内・夏島)。高松宮殿下、伊東巳代治、金子堅太郎、加藤寛治等が列席する。碑文は伊東巳代治伯の撰書。(『田浦町誌』)
	12. 4 皆ケ作トンネル(追浜町１丁目･船越町６丁目間)が竣工する。(『横貿』)
昭和２ （１９２７）	3. 4 米国寄贈の人形伝達式が県庁で行われ、浦郷尋常小学校も受領する。(『市教育史』)
	5.－「烏帽子巖之跡」碑が旧地点に建立される（花崗岩、高さ 93、幅 36.5 センチ)。(『田浦町誌』)
	5.－ 官修墓地（西南戦争戦病者墓地）荒廃のため改修を加える。(『田浦町誌』)
	6.－ 国道３１号（現・１６号線)、浦郷本浦より長浦田ノ浦まで竣工する。(『田浦町誌』)
	8. 1 浦郷字細浦地先の公有水面の埋立て完成により編入する。(『県公報』)
	11.17 深浦地先の公有水面埋立６１８坪を議決する。(「田浦町議会記録」)
	11.17 田浦町は日向･榎戸地先の公有水面４１０坪の埋立案(共同荷揚場)を知事に提出。(『田浦町議会記録』)
	12.20 田浦町議会は①浦郷字前田に電車停留所特設費（追浜駅設置）として、３,０００円を湘南電気鉄道㈱に寄付すること②本町浦郷字日向・榎戸地先公有水面４１０坪７合埋立及び護岸工事費として５,０００円の支出を議決する。(『田浦町議会歳入歳出追加予算案』)